

港湾振興便り



2014. 3

第83号

:~:

目次

:~:

1 ポートエッセイ — 沖縄から「食のかけはし」 —
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

- 「第1回京浜港物流高度化シンポジウム」を開催しました
(京浜港物流高度化推進協議会)
- みんなで考えまひよ“どないすんねん！大阪湾”
～「第10回ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」開催～
(近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所)
- 「鳥取港利用者懇談会」を開催しました
～産業の国際競争力強化に向けて～
(中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所)
- 浜田港で着工記念式典を開催
～浜田港福井地区臨港道路整備事業～
(中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所)

3 お知らせ

:~:

1 ポートエッセイ — 沖縄から「食のかけはし」 —
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

:~:

安倍政権の成長戦略を担う「国家戦略特区」の選定が大詰めを迎えている。新潟市では6次産業化を目指し農家レストランの開設や農地の流動化を促進する「ニューフードバレー特区」と、ロシアなど対岸に向けて農産物輸出入基地化を図る「環日本海ゲートウェイ特区」などを提案している。

エリア指定は近く決定されると聞かが、特区計画の作業を進める中で、各地の農産物輸出入の取り組みを知った。特に規制緩和が進んでいる沖縄では、農林漁業成長産業化ファンドと沖縄県の助成制度を活用した「食のかけはし事業計画」が進んでおり、興味深い取り組み

なので紹介する。

計画づくりの中心となっているのは、三重県伊賀市で「伊賀の里モクモク手づくりファーム」を運営する農業組合法人だ。木村修・代表社長理事は、日本が人口減少に向かう中で農産物直売所が乱立している状況を憂慮し、「日本の農産物に付加価値を付け、新しい販路をつくろう」と新規事業を推進している。

新しい販路として着目したのが成長著しい東南アジアのムスリム（イスラム教徒）だ。全国の直売所や一次産業者をネットワークし、沖縄を加工基地としてイスラム教が食べられない食材を使わないハラール対応日本食を製造し、インドネシアやマレーシア向けに提供するものだ。

当面はムスリム対応を迫られている日本のホテルや飲食店に販売し、第2段階で輸出、次の段階では現地にアンテナショップなどを展開する。世界で評価されている日本食をベースにハラール対応は厳格にし、ハラール認証を得ていく方向で出資を募った。うるま市経済特区に立地することで特区のメリットを引き出す考えだ。

今回の国家戦略特区の指定で規制緩和が進めば、各地での展開が考えられる。日本では人口減少が進むが、世界の人口は爆発的に増加する。これをビジネスチャンスに結びつけることが求められている。

*:

2 トピック

*:

●「第1回京浜港物流高度化シンポジウム」を開催しました

(京浜港物流高度化推進協議会)

2月6日(木)に「第1回京浜港物流高度化シンポジウム～輸出入コンテナマッチングの促進に向けて～」を開催しました。このシンポジウムは、物流コスト削減に関心の高い荷主企業の意見をきっかけに、コンテナマッチングに先進的に取り組んでいる企業、有識者の協力を得て実施しました。基調講演では、グリーン物流優良事業者表彰で



経済産業大臣賞を受賞した関連団体22社の中心企業である(株)クボタの土本哲也氏から取組の紹介があり、その後、神奈川大学名誉教授の中田信哉氏をコーディネーターに土本氏その他、(株)JR貨物・インターナショナルの五島洋次郎氏、NPO法人エスコットの藤本治生氏、国土交通省関東地方整備局の松永康男氏をパネリストに迎えて、コンテナマッチングの事例や現状・課題についてのパネルディスカッションが行われました。会場には、荷主企業、

物流企業、船社、行政など多岐に渡る業種から200名を越える聴講者が集まり、熱心に耳を傾けていました。パネルディスカッション後には意見交換会や交流会が行われ、パネリストとの質疑応答や参加企業、団体同士の情報交換が活発に行われました。

●みんなで考えまひよ“どないすんねん！大阪湾”

～「第10回ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」開催～

(近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所)

平成26年3月2日(日)大阪市立自然史博物館にて「第10回ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」(主催：大阪湾見守りネット、大阪湾環境保全協議会、神戸港湾空港技術調査事務所)を開催しました。

大阪湾を「ほっとけない」元気な市民や団体が一堂に集い、今後の大阪湾における環境再生のあり方をみんなで考え、経験や情報、思いについて語り交流することを目的に、*大阪湾見守りネットが中心となり平成16年度から毎年1回開催しており、今回で10回目となります。



午前の部では、「海の再生ほっとかへんリレートーク」と題し、海の再生の取り組みについて感じたことや考えたことを大人から子供へのリレートークでつなぎながら、未来の大阪湾をどうしていきたいのかなどを話し合いました。

午後の部では、ポスターセッションや貝殻を使った人形づくり、チリメンモンスターを探すイベントなどで、参加者に自由に交流していただいたところ、なかなかの盛況ぶりでした。

続いて「見守りネットでつながってトーク」と題し、大阪湾見守りネットの田中代表&山西副代表コンビの司会で、大阪湾での主な取り組みを例に大阪湾見守りネットが果たしてきた役割と成果、今後の取り組みや機能について話し合いました。



また、特別講演として朝日新聞社の小林次長にマスコミの視点から「大阪湾と人とのつながり」について、話題提供として横浜国立大学の古川恵太教授に東京湾の取り組み「東京湾新再生行動計画」についてご講演いただき、引き続き開催されたパネルディスカッションでは未来の大阪湾についてさらに議論を深めました。

当日は約250名の幅広い年齢層の参加がありました。海の再生に関わる取り組みを拡げていくため、「つながる・つなげる」をキーワードに、世代間の拡がり、意識の拡がり、場所の拡がりなどを進めていく時に大切な視点を再確認するとともに、将来の大阪湾のあり方などについて目標像を共有できたフォーラムとなったのではないのでしょうか。

当事務所としては、大阪湾に関心のある方がこのような活動をしやすいよう、微力ながらサポートしていきたいと考えております。

大阪湾の小さな応援団（子供）から大きな応援団（大人）まで、たくさんの応援団が増えて、みんなが誇れる豊かな海になることを願ってやみません。

※大阪湾見守りネットとは、第1回大阪湾フォーラムに参加したメンバーを中心に大阪湾に関心のある個人や団体からなるゆるやかなネットワークで平成17年に設立しています。

●「鳥取港利用者懇談会」を開催しました ～産業の国際競争力強化に向けて～

（中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所）

中国地方国際物流戦略チームの取組の一つとして、港湾利用者の方々の物流全般に関するニーズを把握するため、利用者懇談会を実施しています。中国地方国際物流戦略チームは、平成18年8月に中国地方整備局、中国運輸局及び中国経済連合会が事務局となり設置したものです。

平成18年度以降、中国管内において、のべ26箇所で開催しており、



鳥取港では平成19年1月及び平成20年8月に開催しました。この度、平成26年1月29日に第3回目となる利用者懇談会を開催し、地元企業等14社、有識者等の方々にご参加頂き、貨物埠頭における荷役機械の整備、新規貨物への対応（燻蒸場所の確保）、道路ネットワークの整備を生かした港湾における交流促進などの鳥取港の更なる利便性向上のため、様々なご意見・ご要望を頂きました。

●浜田港で着工記念式典を開催 ～浜田港福井地区臨港道路整備事業～

(中国地方整備局 境港湾・空港整備事務所)

浜田港福井ふ頭と、現在整備が進められている山陰道（浜田・三隅道路）とのアクセス道路となる臨港道路福井4号線の現地着工を記念して、地元選出国會議員、溝口島根県知事をはじめ、県、市、利用企業等多数の関係者ご参列のもと、平成26年2月16日（日）に浜田市内の“いわみーる”にて着工記念式典を開催しました。

当日は、この時期の山陰の気候にしては珍しく快晴に恵まれ、多数のご祝辞をいただき、事業概要説明、くす玉開披と滞りなく進行し、記念行事として石見神楽「^{いわみかぐら}恵比須」も披露され、和やかな雰囲気の中式典が閉幕しました。

今後、浜田港及び周辺地域の発展のため、着実な整備を進めて参ります。



くす玉開披



石見神楽「恵比須」



1号橋(仮称)イメージ図



2号橋(仮称)イメージ図



3号橋(仮称)イメージ図

